

学習塾でこそNIE(教育に新聞を)を

—出張授業で考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q : 相変わらず中学校や高校に出張授業にお出かけのようですね。

A : 以前ほど多くはないにしても、毎月 1 ~ 2 回は出張授業に出かけています。所属する公益社団法人経済同友会(東京)や、公益社団法人栃木県経済同友会、群馬経済同友会、足利東ロータリークラブ、足利商工会議所などでは、中学校や高校、大学、大学院、教育委員会などからの要請により、交通費を含め一切無料で、経営者を出張授業の講師として派遣しています。

Q : どのようなテーマでお話をするのですか。

A : (1) 授業のテーマとして要請されるのは、「働くとは何か」「社会で求められる能力とは何か」「何のために学ぶのか」などです。

(2) 授業では必ず、地域や日本、世界の動きを知り、自分で考える力、批判的思考能力を身につけるために、新聞を毎日読んでスクラップブックを作ることをお勧めしています。新聞を毎日読み続けると、すべての学力の基礎である「読解力」が身につくことも、必ずお話ししています。

(3) 併せて、辞書の活用で語彙力を身につけ、本格的な読書で思慮深さ・省察力を身につけることも、新聞と同様に「読解力」を身につけるのに欠かせないことも、必ずお話ししています。

Q : ずいぶん熱心ですね。ところで、中学生や高校生は新聞を読んでいますか。

A : (1) はっきり言って、あまり読んでいないようです。

(2) 先日、ある高校で、学校に備え付けの新聞をお借りし、生徒に一部ずつお渡しして一面からじっくり読むようお願いしたら、ほぼ全員がびっくりしているようでした。

(3) そこで、一面の下の方には、その新聞社で一番筆の立つ論説委員といわれる方が「コラム」を執筆していること。多くの新聞で、2 ~ 3 ページ目には、新聞社として社会に最も訴えることを「社説」として取りまとめていること。多くの新聞には「投書欄」があること。これらのことを説明し、少し時間を取ってじっくり読んでもらいました。

Q : どうでしたか。

A : みなさん、びっくりしているようでした。

Q：なぜですか。

A：おそらく、新聞をじっくり読んだことが、今まであまりなかったためではないかと思われます。新聞を購読している家庭が減っていることも原因と思われます。

Q：では、どうしたらよいとお考えですか。

A：(1) 新聞は、1日遅れでも十分役に立ちます。お金の使い道を考えて家庭で新聞を購読し、まずは保護者が新聞に目を通し、教育のために、前日の新聞を子どもにプレゼントするよう、保護者を説得することが第一と考えます。

(2) 1日1回は、学校の図書館・図書室に行き、新聞を一面からじっくり読む。数日に1回は、近くの公立図書館に行き、いくつかの新聞を一面からじっくり読む。

(3) 新聞をじっくり読むことも含め、学校の図書館・図書室と近くの公立図書館の具体的な利用方法を身に着けさせることも大切です。

Q：新聞を読むときに、大切なのは何ですか。

A：(1) 事実の部分と意見の部分とを、マーカーなどで明確に区分しながら読むことです。

(2) 新聞は5W1Hを原則に書かれていますので、読み手としては、どこまでが事実で、どこからが意見かを考えることが大切です。

(3) これをやり抜くと、論理的・分析的思考能力が身に着きます。

Q：ところで、NIEとは何ですか。

A：(1) Newspaper In Education(教育に新聞を)の頭文字をとったものです。NIEは、新聞を活用した教育として、日本各地の多くの学校でとても熱心に展開されています。

(2) 毎年10月15日から1週間行われる「新聞週間」、11月の「NIE月間」の時には、様々なイベントと同時に多くの新聞社がNIEの特集を組み、全国各地のユニークな取り組みを紹介しています。是非、ご参加ください。

(3) すべての都道府県にはNIE推進協議会があり、独自の活動を展開しています。1年に1回は、全国NIE大会が開催されています。本年2018年は7月26日～27日に、盛岡市で第23回全国NIE大会が開催されます。2019年は8月1日～2日に第24回大会が宇都宮市で、2020年は11月に第25回大会が東京で開催されることが決まっています。是非、ご参加ください。

Q：NIEの学会もあるのですか。

A：(1) 日本NIE学会があり、とても熱心に活動しています。毎年全国大会を開催し、2018年は11月24日～25日に、鹿児島大学で第15回大会を開催の予定です。昨年2017年は、京都府宇治市の京都文教大学での開催でした。

(2) 各地のNIE推進協議会、NIE全国大会、日本NIE学会全国大会ではすべて、極めて熱心なNIEの取り組みが発表されます。極めて有益ですので、HPをご参照の上、是非ご参加くださいますよう、心からお勧めいたします。

(3) 開倫塾の取り組みは、以前、日本NIE学会でご報告させていただきました。また、来年8

月の全国 NIE 大会でもご報告させていただく予定です。

Q：これからの N I E で取り組むべきテーマは何だとお考えですか。

A：(1) 国際連合の定めた「SDGs」17 項目に尽きると考えます。

(2) 「SDGs」17 項目の大切さの理解と同時に、新聞を毎日じっくり読み込んで、これからの地域や日本、世界のあるべき姿を自分の力で考え、その考えをまとめる。その上で、少しずつでも自分の責任で行動に移す。

(3) このプロセスで、NIE の果たす役割は極めて大きいと考えます。是非、先生方の学習塾・予備校・私立学校でも、NIE の取り組みをよろしくお願いいたします。NIE にご関心のある塾の先生は、是非ご連絡ください。全国の学習塾の先生方と NIE の研究会を発足したく存じます。(0284 - 72 - 5945、開倫塾 林まで)

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月、先生方にご紹介したいのは、ルチル・シャルマ著「ブレイクアウト・ネーションズ『これから来る国』はどこか？」早川文庫、早川書房 2015 年 4 月 20 日刊と、同著「シャルマの未来予測 これから成長する国 沈む国」東洋経済新報社 2018 年 4 月 19 日刊の 2 冊です。「この 15 年間、毎月 1 週間を新興国のどこかで過ごし、滞在中はその国のことばかりを考え、現地のあらゆる種類の人々と出会い、たいていは陸路を伝って至る所を訪ね歩いた」著作。著者の 3 冊目は、2019 年 1 月 22 日刊行予定の「The 10 Rules of Successful Nations」(英文)です。この 3 冊で、2008 年のリーマンショックから 2018 年のトランプ大統領大暴れまでの 10 年間の世界の流れ、国家の盛衰とその原因がよくわかります。地図帳とメモ帳を片手に、「現代社会の教科書」、「現代日本を分析するための基本書」として 5 ～ 6 回読むと、勉強になると確信します。英文の原著を併読すれば、素晴らしい英語の勉強になります。日本語訳、原文とともに、大学生や大学院生、社会人の輪読テキストとして最適です。先月の米倉誠一郎著「イノベーターたちの日本史」(東洋経済新報社)と、内田貴著「法学の誕生」(筑摩書房)の 2 冊と同様、一度読み始めると、手から離れない 2 冊でした。是非ご一読を。